

津消防団紹介



三重県消防協会長
津市消防団統括団長
津市津消防団長
谷口 繁 喜

平成十八年一月の市町村合併により、十市町村の消防団はそのまま引き継がれ、十団の複数消防団制が採用されました。全体としては、津市消防団となり、旧津市消防団は津市津消防団と名称が変わりました。

各消防団は、それぞれの地域の特性を活かした活動を行っています。組織や消防団員数については、市内では最大の規模で、市の中心部の安全を守るという重要な役割を担っています。



軽可搬のポンプ操作を実施する
デージー分団

組織構成
成は、団本部をはじめ、旧津市を中
部(新町・養正・敬和・橋北)・北部(栗真・白塚)・



木遣りを披露する団員 (平成17年消防出初式)

一致協力し、地域に根ざした消防活動を指し、安全・安心な街づくりをモットーに全団員が

身田・大里・高野尾(西部)安東・櫛形・片田・神戸・南部橋南・藤水・高茶屋・雲出)の四方面隊に区分し、十八分団四百五十一名で組織されています。
この中には、平成十八年一月に発足した女性だけで構成されたデージー分団も含まれ、櫻川政子分団長以下十一名で、火災や救急などの様々な訓練や予防啓発はもちらんのこと、災害活動実部隊としても活躍しています。
また、旧津市の消防出初式で恒例になった消防団員による木遣り披露も、平成十八年四月にはメンバーを固定化、クラブ化し、津市津消防団木遣り組として、唄手隊・纏隊・鐘・梯子・鳶隊の総員二十一名で各種イベントに参加しています。
これからも、「安全・安心な街づくり」をモットーに全団員が

守れ! 私の街の文化財

文化財防火デー各地で訓練



水消火器により初期消火訓練をする住民 (波戸神社 1/25)



火点をめがけて消火する婦人防火推進委員 (谷川士清邸 1/25)



署員から消火器の説明を受ける住民 (称名寺 1/24)

一月二十六日の文化財防火デーに伴い、文化財を火災から守るため、市内各地の神社や寺など四十六カ所で防火診断や訓練などが行



一斉放水する消防職団員 (高田本山専修寺如来堂 1/25)

われました。
一身田町の高田本山専修寺でも、震度六の地震が発生し、ろうそくが転倒、重要文化財に指定されている如来堂から出火したという想定で訓練が始まりました。高田本山自衛消防隊員の救出救護訓練、一身田地区自主防災協議会による文化財の搬出訓練、婦人防火推進委員会のパケツリレー初期消火訓練、消防職団員による消防救急訓練など、約百四十人が参加して、本番さながらに行われました。
訓練終了後、黒宮英二教育次長に続き、野田重門消防長が、災害はこのような条件の整った状況下で発生するとは限りませんが、不測の事態にどう対処するかが重要です。今日の訓練の反省を踏まえて有事に備えて下さい。」と講評しました。